



Ryukoku University



# Center Report

龍谷大学 学修支援・教育開発センター 通信

2022-1

2022, Number 01  
CONTENTS

2022 年度学修支援・教育開発センターの基本方針	2
STEAM コモンズオープン記念セレモニー	3
アセスメントテストの学修支援・教育開発センターへの移管について	3
ライティングサポートセンターについて	4
2021 年度ライティングサポートセンター年間報告	5
ICT 教育賞・学長賞選考、授与式	6
オンデマンドコンテンツ制作サポートについて	7
2021 年度学修支援・教育開発センター 事業報告	8
新着図書紹介	11

## 2022年度学修支援・教育開発センターの基本方針

- 『龍谷大学基本構想400』第1期アクションプランに掲げる、「学び方の変化に対応した教員の教育力の向上を可能とするFD活動の推進」、「教員の教育力向上に向けた情報共有や評価制度の在り方の検討」、「学生の参画を得て、教学改革を促進する組織文化を醸成する仕組みの検討」に関連する各事業を、本センターが中心となって各学部・研究科等と連携しながら取り組んでいく。
- 各学部・研究科等における教育活動と連携し、教職員や学生の参画を得ながら、全学レベル、学部レベル、授業科目レベルの教学マネジメントの一環として、教育改善活動を推進する。
- 教学マネジメントを支える基盤として、FDならびに教学IRについて、それぞれの定義に基づいて活動を展開していく。特に、教学IRにおいては、教育に関する各種データの可視化や分析結果を提示し、FDに活用するなど、両者の密接な連携を推進する。
- 学生の主体的な学修を促し、学修効果を高めるためのライティングサポートやコモン・ルーブリックの活用などの学修支援事業を推進する。
- 2021年度に策定された「2021 龍谷大学ICT教育(オンライン教育含)推進計画」に基づき、オンライン教育における教授法や質保証のあり方等についての検討・共有を図る。

## STEAMコモンズオープン記念セレモニー

2022年4月4日(月)に滋賀県や大津市、滋賀県内の経済団体、付属平安を含む高校から来賓を迎えて、『STEAMコモンズ』オープン記念セレモニーを開催しました。

瀬田キャンパス智光館エリアに開設した『STEAMコモンズ』は、「ものづくり」と「デザイン」を通じた学生間の交流や、学生と地域コミュニティとの連携などを目的とした活動空間です。学部に関わらず、科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、アート(Arts)、数学(Mathematics)などに触れる活動ができます。

セレモニーでは、入澤学長の開会挨拶、外村先

端理工学部長による本学における『STEAMコモンズ』の展開についての紹介に引き続き、滋賀県総合企画部長 東 勝 様 の代読により三日月 大造 滋賀県知事から祝辞をいただきました。祝辞では、STEAMコモンズ開設に際し、琵琶湖版SDGsである「マザーレイクゴールズ(MLGs)」や「しがCO<sub>2</sub>ネットゼロムーブメント」などにも影響を与える、イノベーションを起こす人材の育成に期待しているとお言葉をいただきました。

なお、『STEAMコモンズ』は、日常的なものづくりや自主的なプロジェクト活動が可能なFabエリア(智光館2階)と、英会話レッスンや調理活動などができるGlobe Lounge & Kitchenエリアで構成されています。

Fabエリアでは、取り扱いが簡易な3Dプリンターやレーザー加工機など、初心者でも比較的容易に扱うことのできる工作機械や、電子回路設計などが可能な工作・計測機器などを自由に利用できます。他にも、動画撮影ができるスペースやロボットなどを動かすスペースもあります。

Global Lounge & Kitchenエリアでは、英会話レッスン「English Lounge」を実施するほか、調理活動や地域コミュニティと連携したイベントの開催が可能です。また、農学部牧農場の収穫物などを取り扱うマルシェの開催なども予定しています。

瀬田キャンパスの活性化の一翼を担う場所として、皆様の積極的な利用をお待ちしています。



## アセスメントテストの学修支援・教育開発センターへの移管について

本学では、2000年代におけるキャリア教育への社会的要請の高まりから、キャリアセンターにてアセスメントテストを導入しました。この間、結果データについて、教学企画部や入試部、IR室等に共有され、各部署において必要な分析に活用されてきました。

近年、中教審「教学マネジメント指針」(2020年)等において、教学マネジメントの重要性が提言されています。本学においても教学マネジメントを実質化するために、学修成果を可視化し、適切に検証・改善するための指標として「アセスメントプラン」を策定しました。このことにもない、全学的な教学IR推進の一環として、アセスメントテストを学修支援・教育開発センターに移管することにより、各学部・研究科等と連携した教学IRを更に推進し、教学マネジメントの実質化につなげていきます。

学修支援・教育開発センターで実施するアセスメントテスト

名 称	対象年次
大学生基礎力レポート	1年次
GPS-Academic	1年次・3年次 (短期大学部は1年次・2年次)

# ライティングサポートセンターについて

## 高大連携推進室及び学生部との連携講習会を開催

ライティングサポートセンターでは、毎年5月と10月に各2回、センターを広く知っていただき、活用してもらうための講習会を開催しています。さらに、2022年5月は、高大連携推進室や学生部と連携し、ライティングサポートセンター・ライティングスーパーバイザーの島村健司先生による講習会を新たに2回開催しました。

### 龍谷大学附属平安高等学校向け講習会 (2022年5月10日(火))

龍谷大学附属平安高等学校の本館講堂にて、高校3年生を対象に、龍谷大学ライティングサポートセンターによる講習会「どういふふうを書く? 大学で書く学びにつなげるヒント」を開催しました。本講習会は、高大連携教育プログラムの一環として行われたものです。

これから小論文や志望理由書の作成などに取り組む生徒たちにむけて、“感想文とレポートのちがいがい”や“効果的な文章表現”として「一文一義」の例など、文章を書く上で気をつけたいことなどを紹介しました。

生徒たちは、熱心にメモをとりながら、話を聞いていました。また、龍谷大学に進学する生徒に向けて、ライティングサポートセンターの機能についても紹介し、大学入学後の学修支援について知っていただくきっかけにもなりました。



### 学生部との連携講習会 (2022年5月11日(水))

課外活動選抜入試での入学者や重点・強化サークルの1年生を対象に、「なるほど、レポートのコツ」と題し、オンライン講習会を開催しました。

“レポートのタイプを知る”、“論証型レポートの前提”など、レポートを書く上で意識したいことなどを紹介しました。また、ライティングチューターを代表して、文学研究科の中村実咲さんにも協力いただき、ライティングサポートセンターの場所や活用方法について紹介しました。

ライティングサポートセンターのことを知らない学生、知っていたけど相談に行きにくいと思っていた学生に向けて、少しでも身近なものとなるよう、引き続き、広報に努めてまいります。



ライティングスーパーバイザー 島村健司 先生



ライティングチューター 文学研究科の中村実咲さん

# 2021年度ライティングサポートセンター年間報告書

ライティングサポートセンターでは、本学学生のレポートや卒業論文などのライティングにまつわる相談に応じ、それらを支援することを目的としています。2021年度は以下のとおり、支援を実施しました。

## 〈相談対応事業〉

### 1. 相談実績

- (1) 開室日数：145日(昨年度：71日)  
授業実施期間中および定期試験期間中に開室
- (2) 相談者数：652人(オンライン：350人、対面：302人) ※相談対応時間60分で換算(昨年度：217人)
- (3) 1日平均利用者数：2.8人(昨年度：3.0人) ※小数第2位四捨五入、以下同じ
- (4) 相談者の内訳

①学部(大学院)学年別(人) ※表中、国際は国際文化を含む。また、先端理工は理工を含む。

	1年	2年	3年	4年以上	修士	学部合計	割合
文	66	13	11	68	7	165	25.3%
経済	0	3	1	47	0	51	7.8%
経営	6	12	0	4	0	22	3.4%
法	12	1	2	0	0	15	2.3%
政策	0	0	0	2	0	2	0.3%
国際	159	28	11	72	0	270	41.4%
先端理工	2	5	3	4	0	13	2.0%
社会	7	11	5	61	14	98	15.0%
農	3	2	9	0	0	14	2.1%
短期大	0	1	—	—	—	1	0.2%
留学生別科	1	0	0	0	—	1	0.2%
学年合計	256	76	42	258	21	652	
割合	39.3%	11.7%	6.4%	39.6%	3.2%		

②相談内容の種別  
※1回のセッションで複数の種別対応をしたケースを含む。

相談内容の種別	件数	割合
卒業論文・研究	255	37.4%
レポート課題	326	47.8%
ゼミ発表(レジュメ)	48	7.0%
ゼミの志望理由書	2	0.3%
修士論文	16	2.3%
研究計画書	8	1.2%
就職関係	2	0.3%
留学関係	18	2.6%
奨学金関係	3	0.4%
その他	4	0.6%

\*その他は、学会の要旨とポスター、学生サポーターの志望理由書(図書館)、口述試問の対策、授業課題(英語文献の日本語訳)であった。

## 〈相談対応以外の事業〉

### 1. 講習会

講習会は通常の相談対応とは異なり、ライティングスーパーバイザーやチューターが講師となり、これまで蓄積された相談者のデータをもとに学生が躓きやすい内容をピックアップして、主に昼休み等を実施しています。本年度は前期をオンライン、後期をハイブリッドにて実施しました。

講習テーマ	実施形態	実施日	時間帯	予約者数	参加者人数
レポートのタイプを知る	オンライン (GoogleMeet)	5/10 (月)	12:40	77	59
レポート(論証型)の実際を知る		5/14 (金)		82	55
学術的な文章の読み方を知ろう	ハイブリッド (GoogleMeet + 和顔館アクティビティホール)	10/20 (水)	13:20	62	35
卒業論文をスムーズに作成するために		10/27 (水)		63	28
合計				284	177

### 2. 出張講習会

出張講習は、科目担当教員の依頼(原則、1年次生受講科目)に基づき、ライティングスーパーバイザーやライティングチューターが授業内でレポートの作成において必要な内容(論文の構成・引用の方法等)をテーマに60分の講義を行うものです。録画データの提供及び対面で実施しました。

【録画データ提供】 \*教員名敬称略

教員名	学部	科目名	実施日	曜日時	テーマ
1 数田有紀子	経済	入門演習	6/16	水・3	レポートの作り方C-引用の仕方・注と参考文献の書き方
2 辻田素子	経済	入門演習	6/23	水・3	レポートにおけるテーマの絞り方
3 若山琢磨	経済	入門演習	6/30	水・3	レポートにおけるテーマの絞り方
4 滋野正道	経済	入門演習	7/7	水・3	レポートの作り方A-構成を知ろう

【対面実施】 \*教員名敬称略

教員名	学部	科目名	実施日	確講時	実施場所	テーマ	受講者数	備考
1 二葉晃文	国際	基礎演習A(再履修)	10/8	水・3	深草5号館401教室	レポートにおけるテーマの絞り方	8	ハイブリッド
2 松岡絵梨子	文	英語総合2(B)	11/12	金・1	深草21号館301教室	レポートの作り方B-手順を知ろう	39	対面のみ
3 松岡絵梨子	文	英語総合2(B)	11/12	金・2	深草21号館301教室	レポートの作り方B-手順を知ろう	38	対面のみ
4 神吉正三	法	法政入門演習	12/1	水・2	深草22号館302教室	レポートの作り方B-手順を知ろう	26	対面のみ
5 松村省一	国際	リサーチ方法論B	12/15	金・3	深草和顔館314教室	レポートの作り方A-構成を知ろう	12	対面のみ
6 大谷由香	文	仏教基礎演習B	12/17	金・1	深草5号館502教室	レポートの作り方A-構成を知ろう	24	対面のみ

### 3. 図書館との連携(おすすめ本の紹介)

- (1) 前期
  - 深草図書館  
期間：6月21日～8月4日  
テーマ：厳選！レポート・卒業論文の取り組み方お役立ち本
  - 瀬田図書館  
期間：6月1日～7月31日  
テーマ：〈前半〉厳選！レポート・卒業論文の取り組み方お役立ち本  
〈後半〉大学院生のチューターが学生時代に読んでおけばよかったと思う本
- (2) 後期
  - 深草図書館・瀬田図書館  
期間：11月1日～1月31日  
テーマ：あたりまえを疑ってみよう

## 2021年度「龍谷ICT教育賞・学長賞」公開審査会及び「龍谷ICT教育賞」表彰式を開催

2020年度に引き続き、コロナ禍において、ICTを用いて授業運営に尽力している教員の方々や、学生の学修意欲向上に努めている教職員の方々を対象として、優れた取組を称賛するための制度「龍谷ICT教育賞」の募集を行い10件の応募をいただきました。

書面審査の結果、応募取組のうち、個人部門4件、組織的取組3件の合計7件の取組が「龍谷ICT教育賞」を受賞しました。

さらに、2022年2月24日には、「龍谷ICT教育賞」から「龍谷ICT教育賞・学長賞」を選出するための公開審査会を開催しました。プレゼンテーション動画により審査を行うもので、実践的な取組の学内共有も兼ねて行いました。本審査会により、「龍谷ICT教育賞・学長賞」2件が選出されました。

2022年4月22日、深草キャンパス 紫英館 学長執務室にて、「龍谷ICT教育賞・学長賞」及び「龍谷ICT教育賞」受賞者に対し、表彰式を執り行いました。入澤学長から、表彰状と記念盾／ペーパーウェイトが贈呈されました。

2022年度も、本制度をとおして、グッドプラクティスの共有による教育の質向上等に繋げてまいります。引き続き、ご協力をお願いいたします。



学長挨拶



十字部合同学生会の学生も審査を実施

### 龍谷ICT教育賞・学長賞

【個人】 100%オンデマンド授業におけるアクティブ・ラーニングの実践……………(経済学部 神谷 祐介氏)

【組織的取組】 協定校Nanyang Polytechnic 合同オンラインプログラム  
“Virtual Singapore-Japan Educational Exchange (Summer 2021)”  
……………(グローバル教育推進センター 久松 英二氏、近藤 裕彦氏、依山 カレンリー氏、益城 健司氏)

### 龍谷ICT教育賞

【個人】 ・反転授業とハイフレックス方式を併用した外国語会話教育……………(法学部 伊藤 貴祥氏)  
・オンラインによる授業・反復学習・課題の一体化への取り組み……………(先端理工学部 菊池 隆之助氏)  
・地域連携を視野に入れたハイブリッド・ハイフレックス授業「コミュニティ論」の展開(と苦悩)  
……………(社会学部 坂本 清彦氏)

【組織的取組】 ・YouTubeライブを利用した討論会の実施……………(政策学部 今里 佳奈子氏、大石 尚子氏、並木 州太郎氏)  
・社会起業家育成プログラム「バーチャルフィールドワーク」  
……………(龍谷エクステンションセンター 並木 州太郎氏、深尾 昌峰氏、野澤 信孝氏)



表彰式集合写真



龍谷ICT教育賞  
過去受賞者一覧

## オンデマンドコンテンツ制作サポートを開始

オンデマンド授業の質向上のためのコンテンツ制作サポート体制の充実の一環として、2022年1月20日から、深草キャンパス 和顔館1階のメディアスタジオにて、専門スタッフによるコンテンツ制作サポートや技術的なアドバイスを行う、オンデマンドコンテンツ制作サポートを開始しました。

ビデオカメラ、動画編集用パソコン、グリーンスクリーンなど、メディアスタジオ内の簡易な機材のできる動画制作について、以下のような制作サポートを行っています。

- ・スタッフのサポートを受けながら、メディアスタジオ内の機材(Webカメラ、ビデオカメラ)で動画収録
- ・Webカメラの使用方法や撮影アプリなど動画収録に関する相談
- ・収録した動画の不要な部分のカットやスライドの挿入など動画編集、PowerPointを使った動画(アニメーション)制作に関する相談
- ・メディアスタジオ内動画編集用パソコンでの編集作業 等



### 2022年1月20日から3月31日までの利用実績

#### 対応件数

1月	2月	3月	合計	相談対応後のサポートメール	13件
4	7	7	18		

#### 曜日

(月)	(火)	(水)	(木)	(金)
4	3	2	8	1

#### 学部別

文学部	経済学部	経営学部	法学部	政策学部	国際学部
2	2	1	1	1	1
先端理工学部	社会学部	農学部	短期大学部	非常勤講師	事務職員
0	5	0	0	4	1

#### 相談項目

収録	収録相談	編集	ビデオ会議システム	収録機器操作等	その他アプリ
1	10	12	9	3	2

相談内容として、多かったのは、収録方法や編集方法でした。

収録方法については、Webカメラの利用方法や録画に利用するアプリケーションについて、また簡単に映像の印象が変わる目線を合わせるコツなどもお伝えしました。

編集方法については、「動画のカット・分割・トリミング」「パワーポイントでの録画、埋め込み」「画質調整(圧縮)」など、多岐にわたる内容でした。

オンライン授業におけるライブ配信やオンデマンドコンテンツ制作のちょっとした困りごとなど、お気軽にご相談ください。

ご利用の際は事前予約をお願いしています。ご予約は、ポータルサイトのアンケートからお願いいたします。詳細は、ホームページをご覧ください。

[https://fd.ryukoku.ac.jp/on\\_demand\\_content/](https://fd.ryukoku.ac.jp/on_demand_content/)



# 2021年度学修支援・教育開発センター 事業報告

学修支援・教育開発センター(以下「センター」という。)では、2021年度の基本方針(2021年度第1回学修支援・教育開発センター会議(4月16日開催)承認)に基づき、教員個人及び各学部・研究科等が行う教育改善活動と有機的に連携を図りながらFD及び教学IRの実質化を目指し、全学的な視点から各種事業を下記のとおり、企画・実施しました。

なお、FD・教学IRの更なる推進を図るべく、「龍谷大学 教学マネジメントの実質化に資するFD・教学IR 推進方針」を策定し(2021年度第5回学修支援・教育開発センター会議(9月17日開催)承認)、この方針に基づき、センター及び各学部・研究科においてFD・教学IRに関する中期実施計画を策定した。

## 1. 教育開発・研究

### (1) 自己応募研究プロジェクト・指定研究プロジェクト

自己応募研究プロジェクト		指定研究プロジェクト	
テーマ	代表者	テーマ	代表者
システムズアプローチによるセラピーの映像を用いた教育手法の開発	伊東秀章(文学部)	学生による授業観察制度の導入・普及に関する研究	寺川 史朗 (法学部/教学企画部長補佐)
中途退学の予防に向けた大学適応感問紙の活用	小正浩徳(経済学部)		
SDGs×アクティブ・ラーニング型授業の実践と効果検証	神谷祐介(経営学部)	学舎間連携アクティブラーニング授業の展開に関する試行的研究	藤田 和弘 (先端理工学部/ 学修支援・教育開発センター長)
オンライン・オンデマンドビデオの字幕・タイトル・作成	Jonah Salz(国際学部)		
保育における言葉の指導法の学修に関する授業改善・教材開発	生駒幸子(短期大学部)		

### (2) オンライン教育の推進

コロナ禍への対応からオンライン授業が普及していたが、一方でICTの利用が当たり前の社会が到来し社会で働くうえでもICTの活用が必須となっている。本学においても、アフターコロナを見据えたオンライン授業を推進するため、「2021 龍谷大学 ICT教育(オンライン教育含) 推進計画」、「オンライン授業実施要件」、「オンライン(オンデマンド)授業推進方策」に基づき、各教学主体が展開するオンライン授業科目について検討を行った。その結果、2022年度試行科目として81科目を選定した。また、オンデマンド型授業の質向上につながるため、他大学の動向等を情報収集・学内共有するなどしながら、2022年1月から、オンデマンドコンテンツ制作サポート事業を開始した。

## 2. 教育改善活動支援

### (1) 学生による学期初めの授業アンケート・学生による学期半ばの授業アンケート

	学期初め	学期半ば
対象科目	2021年度第1学期(前期)・第2学期(後期)全開講科目	2021年度第1学期(前期)・第2学期(後期)全開講科目
第1学期(前期)実施期間	4月7日(火)～4月27日(火)	5月20日(木)～6月15日(火)
第2学期(後期)実施期間	9月18日(土)～10月14日(木)	11月2日(火)～11月27日(水)
実施方法	オンライン及びアンケート用紙を配布して実施	

### (2) 学生による学期末の授業アンケート

manaba course上で「学生による学期末の授業アンケート」を実施した。

【実施目的・方針】	
① 学生が学期ごとの自身の授業に対する取り組みを振り返りながら記録することによって学修活動を伸長・改善するための学修支援の一環として実施する。	
② 学生の回答結果を用いて、教員が個々の授業改善活動に活用し、学部等の組織が集計結果を組織的な教育改善活動に活用するための教育改善活動支援の一環として実施する。	
③ 「学生による学期末の授業アンケート」は、成績評価などの学生個人に関わる評価や、授業評価などの教員個人に関わる評価のために実施・活用しない。	

対象科目：2021年度第1学期(前期)・第2学期(後期)開講の講義科目

※原則、講義科目は実施することとし、演習・実習等の科目や研究科科目については、各教学主体で判断し実施した。

	対象科目数	実施科目数	実施率	受講登録者数	回答者数	回答率
第1学期(前期)実施 (実施期間 2021年7月8日(木)～8月4日(水))	3,396科目	4,010科目	84.7%	164,254人	36,687人	22.3%
第2学期(後期)実施 (実施期間 2021年12月22日(火)～2022年1月28日(金))	3,395科目	2,617科目	77.1%	151,882人	20,619人	13.6%

※実施率 回答科目(1名以上の回答があった科目)数÷対象科目数×100

※回答率 回答者数÷受講登録者数×100

### (3) オンライン授業および対面授業に関する学習状況アンケートの実施

コロナ禍の学生の事態把握や教育改善を目的として、オンライン授業及び対面授業に関する学生の理解度や満足度を測定するとともに、それぞれの教育効果について検討することを目的として、「オンライン授業および対面授業に関する学習状況アンケート」を実施した。

実施期間：10月7日(木)～10月20日(水)

実施方法：全学部生・研究科生を対象にポータルアンケート機能で実施

### (4) 教学IR(Institutional Research)機能の推進

本学における教学IRの定義に基づき、昨年度に引き続き、大学IRコンソーシアムの学生調査をおこなった。1回生調査については、2021年度より法学部、政策学部が本調査に参画し、全学部(調査対象は4年制)が実施した。また、上級生調査(3回生対象)については、7学部(文学部・経済学部・経営学部・国際学部・先端理工学部・社会学部・農学部)が実施した<sup>(※)</sup>。これらの調査結果をもとに、本学学生の「学修行動」、「能力の伸張に関する自己評価」、「満足度」などについて、経年比較をおこなった。

※大学IRコンソーシアム学生調査は、在学時に2回(1年次・3年次)実施するものである。このため、2019年度に1年次生調査を実施した学部が、同学生(3年次生)対象に「上級生調査」を実施した。

#### 【本学における教学IRの定義】

教学IRとは、教学における内部質保証体制の確立及び強化を目的として、教育全般に関する情報収集・提供及びデータ分析、並びに教学政策の策定及びその支援を行う取り組みのことをいう

### (5) ICT活用教育の推進

コロナ禍において、授業運営に尽力している教員や、学生の学習意欲向上に努めている教職員を対象として、優れた取組を称賛するための制度「龍谷ICT教育賞」の募集を行った。10件の応募の中から7件の取組が「龍谷ICT教育賞」を受賞した。さらに、実践的な取組の学内共有も兼ねて、「龍谷ICT教育賞・学長賞」公開審査会を実施し、7件の中から2件の取組が学長賞を受賞した。

### (6) ルーブリック作成ガイドブックの作成

ルーブリックの普及・活用を促進するために、「ルーブリック作成ガイドブック」を策定し、階層別の3つのルーブリック(「課題ルーブリック」「授業ルーブリック」「カリキュラムルーブリック」)の活用方法を整理した。

とりわけ、「課題ルーブリック」の活用を促進するため、教員・学生双方の活用意義を示すとともに全学共通のひな型としてのコモン・ルーブリックを掲載した。

## 3. 教育活動交流・研修

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインを中心に開催し、一部を対面及び対面とオンラインを併用したハイブリッドで開催した。

### (1) 専任教育職員新任者就任時研修会(オンライン(ZOOM)開催)

開催日	研修名	主催	参加者数
4月5日	2021年度新任者就任時研修	教学企画部	21名

### (2) FDフォーラム

開催日	テーマ	講師	参加者数
12月9日	データサイエンス・AI教育の展開	上林 憲行氏 (武蔵野大学) 笹嶋 宗彦氏 (兵庫県立大学) 羽室 行信氏 (関西学院大学)	129名

### (3) FD研修会

開催日	テーマ	講師	参加者数
10月8日	BYOD(Bring your own device)の活用	岡田 忠克氏 (関西大学) 福森 貢氏 (畿央大学) 元木 伸宏氏 (学校法人追手門学院)	30名
1月20日	学生による授業観察	榊原 暢久氏 (芝浦工業大学)	18名
3月11日	教学マネジメントの実質化	沖 裕貴氏 (立命館大学)	40名

### (4) 公開授業と講評会

開催日	教員名	科目名/テーマ
12月17日	伊東 秀章(文学部)	システムズアプローチによるセラピーの映像を用いた教育手法の開発
12月23日	神谷 祐介(経済学部)	SDGs×アクティブ・ラーニング型授業の実践と効果検証
1月18日	生駒 幸子(短期大学部)	保育における言葉の指導法の学修に関する授業改善・教材開発
2月17日	小正 浩徳(文学部)	中途退学の予防に向けた大学適応感問紙の活用
12月から オンライン公開	Jonah Salz (国際学部)	「Covid-19が解き放つ能狂言の挑戦と創造：欧米におけるコロナ時代の新たな劇作と教育法」(伝統芸能論)

(5) 各学部・研究科におけるFD活動

開催日	学部等	テーマ	参加者数
6月16日	文学部	ハラスメントの防止について～加害者・被害者にならないために～	96名
	先端理工学部	Win-Winの産学連携とは	96名
	農学部・農学研究科	農学部・農学研究科における進路実績報告	65名
6月30日	実践真宗学研究科	実践真宗学研究科の研究の動向について 『龍谷大学大学院実践真宗学研究科紀要』に掲載されている要旨から	9名
	理工学研究科	オンライン時代における特許出願の取り組みについて～特許成立要件と情報管理～	100名
7月14日	先端理工学部	先端理工学部R-Gap期間中のPBL科目 ープロジェクトリサーチについてー	96名
7月30日	経営学部	合同型演習における合同報告会	8名
10月6日	2021年度教養教育・学部共通コース FD研究開発プロジェクト 人文科学系科目部会	大講義オンライン授業における成績評価	21名
10月20日	経営学部	2021年度プログラム科目実施報告会	8名
	短期大学部	授業におけるKJ法の活用	16名
10月27日	農学部	「農学部3期生の学修状況について」/ 「学生調査(大学IRコンソーシアム)からみる農学部生の現状について」	65名
11月10日	農学研究科	大学院進学と大学院生のキャリア教育・支援について	47名
11月17日	文学研究科	文学研究科における科研費獲得を目的とした報告会	50名
12月1日	文学研究科	キャリアパスの可視化に向けての検討 ー予測困難な時代に求められる人材ー	34名
12月15日	法学部	オンライン授業における成績評価について	45名
	農学部	入学前教育について	56名

開催日	学部等	テーマ	参加者数
12月15日	経済学研究科	英語開講科目の現況	25名
12月22日	2021年度教養教育・学部共通コース FD研究開発プロジェクト 人文科学系科目部会	オンライン授業におけるTBL導入について	14名
1月19日	経済学部	よいグループワークとはーファシリテーション入門ー	4名
	政策学部	政策実践・探究演習(海外)南京プログラム報告会	21名
	社会学部	新学習指導要領から読み取る大学教育の在り方について ～「総合的な探究の時間」に焦点を置いて～	51名
1月28日	経営学部	～合同型演習における合同報告会II～	8名
2月9日	国際学部・国際学研究科	在外研究員事後報告会	18名
	農学部	第1回龍谷食と農のサイエンスセミナー	58名
2月17日	グローバル教育推進センター	第6回龍谷大学JEP Kyoto&留学生別科実践報告会	20名
2月22日	2021年度教養教育・学部共通コース FD研究開発プロジェクト 人文科学系科目部会	教養教育におけるオンライン授業と対面授業のメリット・デメリットを考えるー測定と評価の視点からー	17名
3月2日	文学部	文学部社会人基礎力講座の総括について	90名
	先端理工学部	先端理工学部オンライン授業の紹介 ①先端理工学部での学びを学ぶオンライン授業科目「理工学のすすめ」 ②計算機実習科目のオンライン化(反転学習)	79名
3月16日	理工学研究科	大阪大学におけるブレンデッド教育の実例	89名
3月29日	経営学研究科	留学生コースの再編案について	6名

4. 学修支援

(1) スチューデント commons の運営

スチューデント commons は、「新型コロナウイルス感染防止のための龍谷大学行動方針」における活動制限レベルに応じた運用を行い、第1学期は主に自習のための仕様とし、第2学期は、自習室仕様に加えて一部、共同学習のための仕様を併用し、学生の利用状況にあわせてレイアウト変更を行うなどの環境整備を行った。また、年間を通して、SD(ソーシャルディスタンス)を確保するために座席数の削減や、感染拡大防止パネルの設置等、感染拡大防止策を実施した。

(2) ライティングサポートセンターの運営

全学的組織となり4年目を迎えたライティングサポートセンター(以下、「センター」という。)は、新型コロナウイルスの感染拡大状況に鑑み、前期は全面オンライン対応とし、後期は、対面を主体としつつ、感染防止および合理的配慮の観点からオンラインとの併用によるハイブリッド対応とした。また、学生のライティング能力の向上や学生のセンターの利用促進を目的に実施してきた公開講習会についても下表の通り実施した。そのほか、出張講義(※)や図書館と連携した展覧などを行った。

※科目担当教員の依頼にもとづき、ライティングスーパーバイザーやチューターが授業内でライティング関連の講義やセンターの紹介を行う。

開催日	テーマ	参加者数	実施形態
5月10日	レポートのタイプを知る	59名	オンライン (Google Meet)
5月14日	レポート(論証型)の実際を知る	55名	
10月20日	学術的な文章の読み方を知ろう	35名	ハイブリッド (Google Meet + 和顔館アクティビティホール)
10月27日	卒業論文をスムーズに作成するために	28名	

また、ライティングチューターがセンター業務を行うことでどのような成長があったかを把握するため、ルーブリック形式で自己評価する成長度調査を行った。

(3) 学生ポートフォリオの構築

学生自身が正課及び正課外の活動過程や成果を管理・蓄積するために、学生ポートフォリオシステム「Mahara」を継続して運用した。一方で、学生ポートフォリオの充実を図るべく、学習支援システムである「manaba course」への学生ポートフォリオ機能の追加について、検討を行った。

5. 学内外との連携、情報収集・発信

(1) 各学部・研究科との連携

開催日	会議名	内容
6月7日	第1回学部FD協議会	2020年度各学部・研究科のFD活動報告について 2021年度各学部・研究科のFD活動計画について
	第1回大学院FD協議会	
11月26日	第2回学部FD協議会	2021年度後期各学部・研究科のFD活動計画について 2021年度前期各学部・研究科のFD活動報告について
	第2回大学院FD協議会	

(2) 他大学等との連携

全国私立大学FD連携フォーラム、(社)私立大学連盟、(財)大学コンソーシアム京都、(社)大学IRコンソーシアム等が主催する各種フォーラムや研修会、講演会等に参加した。また、以下のとおり委員として参加した。

主催	会議名	委員
(財)大学コンソーシアム京都	FDフォーラム企画検討委員会	築地 達郎(社会学部/FD・教学IR企画推進委員)
	FD企画研究委員会	生駒 幸子(短期大学部/FD・教学IR企画推進委員)
(社)大学IRコンソーシアム	調査・活用部会	藤田 和弘(先端理工学部/学修支援・教育開発センター長)
	中期計画検討部会	荒木 利雄(教学企画部事務部長)

(3) 情報収集・調査

学修支援・教育開発センターが中心となり、文教政策等、高等教育をめぐる動向についての情報収集を行い、各教学責任主体等に提供し、教育改革・改善を支援した。

(4) 学修支援・教育開発センター通信、学修支援・教育開発センターNewsの発行

学修支援・教育開発センター通信 通算47号  
学修支援・教育開発センターNews 1～32号

(5) 学修支援・教育開発センターWebサイトの充実

学修支援・教育開発センターが主催・共催する各種イベント情報を掲載し、事業内容・成果等を広く社会に発信した。また、教育活動支援ツール(「シラバス作成の手引き」等)の更新を行うなどWebサイトの充実を図った。

新着図書紹介

インストラクショナルデザイン理論とモデル  
学習者中心の教育を実現する

脳科学や学習化学、情報技術やITを介したコミュニケーション、教育の効果・効率の最大化を求める社会的ニーズ。これらの様々な変化は「学習者中心」を指向し、そして何をどう教えるか、どう評価するかのすべてを変化させる。本書は、IDの巨匠ライゲルスの最終成果。新しい教育パラダイムへの包括的な指針を提供。

出版年月：2020年7月 価格：4,500円(税抜)  
編著：CM.ライゲルス/ ページ数：486p  
B.J.ビディ/R.D.マイヤーズ 大きさ：A5判  
監訳：鈴木克明 I S B N : 9784762831119  
発行所：北大路書房

データサイエンスの考え方  
社会に役立つAI×データ活用のために

データサイエンスは、さまざまなデータを分析・解析し、そこから新しい知見や価値を生み出していく技術・手法です。統計学などの数学を基礎とし、必要に応じてコンピュータを活用して、さまざまな分野の専門知識と融合しながら、データから新しい価値を生み出していくデータサイエンスは、いまや大学生・社会人にとって必須の教養といえます。

出版年月：2021年11月 ページ数：309p  
編著：小澤誠一/齋藤政彦 大きさ：A5判  
発行所：オーム社 I S B N : 9784274227974  
価格：2,500円(税抜)

最短突破 データサイエンティスト検定(リテラシーレベル)  
公式リファレンスブック

「データサイエンティスト検定リテラシーレベル」の公式リファレンスブックが登場。試験で問われる計147個のスキル項目について、要点と学習のポイントを基本から一つひとつ解説。第一線で活躍する執筆陣が具体的なシーンにまで踏み込んで説明しているため、データサイエンティストとしての確かな力が身につきます。さらに巻末の模擬問題では、実際の試験のイメージをつかむことができます。

出版年月：2021年9月 ページ数：264p  
編著：菅由紀子/佐伯 諭 大きさ：A5判  
発行所：技術評論社 I S B N : 97842971122614  
価格：2,360円(税抜)

日本の私立大学はなぜ生き残るのか  
人口減少社会と民族経営：1992-2030

2010年代半ば、日本では、大学の「2018年問題」がさまざまな議論されていた。18歳人口の減少によって、日本の私立大学は次々と経営破綻すると予想されたのだ。しかし、日本の私立大学の数は逆に増えている。なぜなのか。著者たちは人類学者ならではのフィールドワークとデータの分析によってその謎に迫っていく。導き出されたのは、日本独自の「民族経営」の実態であり、それは私立大学のみならず、日本社会の本質をも取り出している。

出版年月：2021年9月 価格：2,200円(税抜)  
編著：ジェレミー・ブレードン/ ページ数：352p  
ロジャー・グッドマン 大きさ：A5判  
翻訳：石澤麻子 I S B N : 9784121101204  
発行所：中公論新社

大学のIRと学習・教育改革の諸相  
変わりゆく大学の経験から学ぶ

本書では、大学における学習・教育に関するマネジメントやIRの在り方を、国内外の特色ある事例を紹介することで追究する。個別大学のケース・スタディを紹介し、組織がデータに向き合う際の目的や問いにどのように取り組んでいくのか、その方法から今後のIRの姿を探る。第3部ではコロナ禍での国内外の大学の取り組みも紹介する。

出版年月：2021年11月 ページ数：177p  
編著：鳥居明子 大きさ：A5判  
発行所：玉川大学出版部 I S B N : 9784472406157  
価格：4,180円(税抜)

学修成果の可視化と内部質保証  
日本型IRの課題

本書では、2010年から10年間の実践を基に、IR、学生調査、ポートフォリオというツールを統合的に利用しながら高等教育の内部質保証に向けた課題を整理し、そのグッドプラクティスを例示する。日本の高等教育研究者に向けて、今後の学習成果の可視化と内部質保証の手がかりを提案する。

出版年月：2021年11月 ページ数：225p  
編著：山田礼子/木村拓也 大きさ：A5判  
発行所：玉川大学出版部 I S B N : 9784472406041  
価格：3,740円(税抜)

図書貸し出しのご案内

学修支援・教育開発センターでは、高等教育やFDに関する図書を購入し、教職員へ貸し出しを行っておりますので、是非ご利用ください。専任教職員につきましては、学内便での貸し出しも可能です。1.お名前、2.ご所属、3.教員/職員の別、4.貸出希望の書名、5.著者名を明記の上、dche@ad.ryukoku.ac.jp までお申込ください。詳細は、[https://fd.ryukoku.ac.jp/for\\_teacher2/](https://fd.ryukoku.ac.jp/for_teacher2/) をご参照ください。



2022年6月発行（通算 48号）  
編集・発行 龍谷大学 学修支援教育開発センター

---

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67  
075-645-2163 <https://fd.ryukoku.ac.jp/>